

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立庄原特別支援学校		
学校長氏名	米原 真弓	栄養教諭氏名	白根 玲子
職員数	60名	児童・生徒数	84名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- 朝食を食べること、また朝食内容のステップアップを図ること等、意識の向上は見られるが朝食摂取の習慣化などに課題がある。
- 口腔機能に合った食事をすることで口腔機能が向上した児童生徒もいるが、改善の見られていない児童生徒もいる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

児童生徒が「健康で安全に生活ができるための習慣」に関する聴取調査票

項目	第1回 (5月)	第2回 (9月)	第3回 (1月)
1 早寝早起き（朝7時頃までに起床、夜10時頃までに就寝）ができています。			
2 朝食を毎日食べることができています。			
3 好き嫌いをせずに食事をすることができています。			
4 一日1～2ℓ程度の水分がとれています。			
5 家庭と学校で定期的に運動をすることができています。（1日1時間程度のスポーツ、ストレッチ、体を動かす遊び等）			
6 十分な休養をとることができています。（土日などに体を休める時間をとっている等）			
7 排便などが定期的にある。			
8 歯磨きが毎日できています。			
9 病気にかからないための予防ができています。（手洗い、うがい、爪切り、マスク着用等）			
10 病気にかかった時の対応ができています。（薬を飲む、受診する、体を休める等）			
11 ストレスがかかっている状況にあるとき、ストレスを発散するなどの対応ができています。（スポーツなどして体を動かす、深呼吸する、歌を歌う、声を出す、音楽を聴く、好きなことを行ったりラックスする、誰かに相談する等）			

項目	第1回 (5月)	第2回 (9月)	第3回 (1月)
12 けがをするような行動を避けることができる。（きまりを守って道具等を使用する、危険な行動をしない等）			
13 けがをしてしまった時の対応ができています。（血を止める、消毒をする、傷を保護する、冷やす、固定する、周りの人に知らせる等）			
14 交通ルールなどを守って安全に行動ができています。（横断歩道や歩道橋を渡る、歩道を歩行する、自転車に乗るときのルールを守る等）			
15 防災について意識があり、災害などに対応ができています。（適切な避難行動、適切な場所への避難、防災グッズの準備等）			

評価方法
○ できている、ある等（支援があればできる、誰かと一緒にならでできる場合も含む）

評価規準

健康で安全に生活できる習慣の育成	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が60%以上	A
	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が55以上80%未満	B
	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が50以上55%未満	C
	聴取調査票の項目において○の数が年度当初以上の児童生徒の割合が50%未満	D

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ）早寝・早起き・朝ごはん」の取組

- 年2回保護者を対象に実施している給食試食会で、保護者に朝ごはんの大切さについて説明し、「朝ごはんを食べること、食事内容をバランスのいいものにする」に協力をお願いした。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」を特にがんばる週間として、年3回強化週間を設けた。その期間中は、登校時に「早寝・早起き・朝ごはん」の曲を校内放送で流す、「早寝・早起き・朝ごはん」のチェックシートを作成し、寝た時間・起きた時間・朝ごはんを食べた内容を記入し、今後生活習慣を見直すところはないか、ふり返りを行った。
- にこにこ祭で、クイズ形式のスタンプラリーや掲示を行い、啓発活動に努めた。

【取組2】（テーマ）教科等における食に関する指導の充実に向けた取組

- 生活単元学習（小学部） のびのび探検隊～学校のひみつ 給食室
 - ア 給食室では、どんな人がどんな仕事をしているか、を動画で確認を行った。
 - イ 「たべものパワー」という内容で食べ物の3つの働きについて学習し栄養バランスについて学習を行った。
 - ウ 給食で使う調理器具を実際に見たり触れたりして大きさや重さ、道具の名称等の確認をした。
 - エ 給食で使用する野菜を洗って皮むきを行い、その野菜をカットし、給食で使用した。
 - オ 調理員さんが野菜を切られている様子や、調理場内の調理器具を見学した。
 - カ 自分たちが洗って皮むきを行った野菜が入った給食を試食した。



(2) 単元学習（中学部）心と身体の健康

栄養の歌を歌ったり、赤・黄・緑の食べ物をグループ分けしたりして、からだの健康には、バランスの良い食事が大切であるという指導を行った。これから、毎日元気で生活していくために、今からどのようなことに気を付けたらよいのかを考えた。

(3) 生活単元学習（中学部）進路学習

野菜の洗浄・皮むき体験、調理室の見学、栄養教諭や調理員から仕事内容についての話を聞き調理の仕事について学習を行った。



(4) 生活単元学習（中学部）家庭生活（食事など）

家庭生活の中で、分担された役割を果たせるように、給食の配膳指導（手洗い指導、衛生的な服装、食べる前のテーブル拭き等）を通して衛生的な食事の準備について学習を行った。

(5) 保健（高等部）

心身の発育・発達に必要なバランスのとれた食事には、3食きちんと食べること、3色そろったものを食べることに必要な量を食すること等について手ばかりを使って指導を行った。

(6) 総合的な学習の時間（高等部）自然体験活動

収穫した作物を使って、生徒が班ごとに1食分の献立を考え調理するという内容の指導を行った。考えた献立は、栄養バランスが良いか、主食・主菜・副菜がそろっているか、時間内に調理ができるかなど栄養教諭が指導やアドバイスをを行い、バランスの良い献立を考え、調理実習を行った。

(7) その他、「生活単元学習」・「総合的な学習の時間」

朝食の働き、バランスのとれた朝食、簡単のできる食事を考えよう、調理実習の事前学習で調理器具の使い方・野菜の切り方等の指導を行った。

(8) 日常生活の指導（全学部）

朝の会、給食の時間、帰りの会において、担任・養護教諭・栄養教諭が連携して指導を行った。
ア 教科などで学習したことを、学校給食を通して確認をした。
イ 献立を通して、食品の産地や栄養についての指導を行った。
ウ 3色食品群を基に考えた、見た目も名前もわかりやすい特別支援学校統一食育キャラクターを活用し、いろいろな場面で指導を行った。
エ 給食の配膳から片付けまでの一連の指導を行った。
(配膳指導、下膳指導、食器の並べ方、はしの使い方、食事マナー、正しい手洗い等)

【取組3】（テーマ）一人一人の発達段階に応じた食形態等の個別指導の充実

言語聴覚士の指導助言に基づき、児童生徒の口腔機能に合った食事になるよう食形態の変更を行った。また、職員研修では、口腔機能にあった食事がなぜ必要なのか等、分かりやすく実技も交えて研修を行った。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- (1) 5月の保護者対象給食試食会でひろしま給食100万食プロジェクトの趣旨やこれまでの取組を説明し協力をお願いした。また、レシピ及びキャッチコピーの募集についても説明をした。
- (2) 夏季休業中、職員研修で「ひろしま給食メニュー」の調理及び試食をした。
- (3) 食数調査依頼し、集計結果や感想をけんこう通信で報告した。
- (4) 食育ウィーク中に「ひろしま給食」統一メニュー“熱く燃えろ!! Cスープ”に合わせて、特別支援学校統一メニュー「トクトクCライス」を提供した。同日に保護者試食会を実施した。
- (5) 児童生徒が、食べたり作ったりした食数をシールで貼って掲示した。
- (6) けんこう通信等を通じてレシピや取組結果等を保護者に報告した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みは、児童生徒同士の中でも認識度が上がり、日々生活の中で意識されていることが伺える。食事内容もだんだんとステップアップしようという意識が見られた。
- (2) 言語聴覚士の指導助言に基づき、口腔機能に合った給食を実施した結果、児童生徒の口腔機能に変容が見られ、むせ・せき込みの減少、体重増加等の成果が出てきている。

【課題】

- (1) 朝食摂取は、早寝・早起きとの関連や、家庭環境が大きいので保護者の協力が必要である。
- (2) 口腔機能に合った食形態の対応については、個別性が高く、問題点に気付けなかったり、気付いた後の改善に時間がかかったり、食べられているのに「今さら」なぜする必要があるのか等理解が得られないケースがある。調理においては、個別対応が多様になり、二次調理に時間がかかり希望どおりに実施できない。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- (1) 朝ごはんの摂取に大きく関係のある、早寝早起きが改善できる指導を進める。
- (2) 教科等における食に関する指導は、栄養教諭の専門性を生かした指導ができるように全体計画や年間指導計画の見直しを行い、関係職員と連携し、計画的、継続的、効果的な指導の充実を図る。
- (3) 児童生徒の口腔機能に合った安全安心な給食の提供ができるように、調理の工夫や知識の向上を図る。